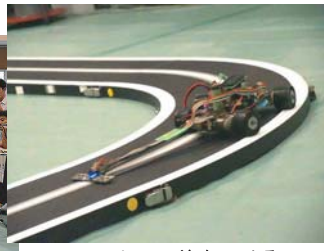
工業つ子

No. 105
—発行日—
2014. 10. 10
—編集—
長崎工業高校新聞部
—発行—
長崎工業高校新聞部

ロボットコンクール県大会
愛機と心を通わせてコースに挑む

九月二十日に島原工業高校の体育館でロボットコンクールが開催され、ロボット部門、マイコンカーラリー部門の両部門に参加。熱い戦いが繰り広げられました。

▼スタート前の緊張感



▲コーナーで差をつける

一年生 準優勝の快挙 マイコンカーラリー

初心者向けのBasicクラスと上級者向けのAdvancedクラスがあるマイコンカーラリー部門。どちらもゴールまでどれくらいの速さで辿り着くことができるかを競います。途中で脱輪する機体も多く出るなか、完走するマイコンカーには観客、選手どちらからも拍手や歓声が上がりました。

▶試合後の高縄君 成長に期待です

大会の一週間前、マイコンカーの部長は大会に向けて目標は「全員完走」と語ってくれました。そして大会前の今、「焦りも半分あります」とコメント。この部門の魅力は「完走させた時の達成感や、自分のイメージしたものがつくれるということ」とのことでした。

大会では予選2回目から調子が出て、結果、Advancedクラスで出場機体十体中、M1高縄祐樹君の「ヴェネーノ」が準優勝、J3竹口数馬君の「にゅーとりの」が八位入賞と好成績を残すことができました。

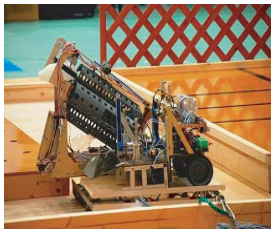
Basicクラスには一年生二人が出場。入賞こそ果たせませんでしたが、健闘しました。三年生の技術を引き継ぐ意味もあった今回の試合。学んだことを活かし九州大会での活躍に期待です。

3分間に全てを込めて ロボット部門

ロボット研究部ロボット班から一台が出場。ロボット競技は、1対1分かれ、射し、得点を競い合う対戦型の競技です。大会が近くなると夜遅くまで部室に残り、ロボットの調整を繰り返していました。

試合中にボトルを発射するための砲台のモーターが故障し、ボトルをとるためのアームを制御する基盤に不具合が出るなど、多々トラブルがありましたが、結果は3位入賞。試合後に、操縦者のD2川下壮平君にインタビューをすると「機体は思い通りに動かなかった。0点ではなくて良かった。来年は、製作にもっと早い段階から取り組み万全の状態で挑みたいと思う」とコメント。顧問の岩田先生からは「結果は残念だが、生徒たちが精一杯取り組むことができた」と一言いただきました。

来年は全国大会へ出場し、良い成績を残すことができるように頑張ってください。



▼ボトルを打ち出す木木木林γ

▲調整しつつボトルのもとへ

わかれみち

「人生は選択の連続」この言葉は有名な劇作家のウィリアム・シェイクスピアが残したとされる誰もが一度は聞いたことがあるであろう名台詞です。

この言葉をはじめて耳にしたのは私がまだ中学生だったころ。当時の私はその言葉にあまり興味がわかず、深く考えたことはありませんでした。

しかし高校生になり、身近なところに「選択」はひそんでいて、今までにたくさんの選択をしてきたこと。また、その面白さを知りました。

私が感じた面白さは、一つの選択からたくさんの新たな選択が広がるということです。例えば昼食を決める時、まずパンにするか、ごはんにするか。パンはパンでも、メロンパンにするか、あんパンにするか、サンドウィッチにするか。このように新たな選択肢が登場します。たった昼食を決めるという何気ないことでたくさんの道が広がる、その可能性に面白さを感じました。

しかし、ときに選択は面白いだけでなく、重く大きな決断をしなければならないときがあります。それは就職や進学などの人生の中でこれから歩む道を決める選択です。私たちは高校を受験するとき、工業、商業、農業、普通科などの選択肢の中から選び、そこから分かれる学科を選択し、高校へと進んできました。

三年生も今、自分の道を進めるべく、受験する会社や大学について自らの目で確かめては悩み、人生の選択に大きな決断を下そうとしています。

人生を歩み、選択をしていく上で、「もしもこっちだったら」と考えることもあるのかと思います。しかし、その瞬間の一生懸命考えてから決めたその道は自信をもって進んでいくことができるのではないでしょうか。

（松尾）

明日を掴め！ 就職試験

九月十六日から始まった就職試験。自分の人生を決める試験に、多くの生徒が挑みました。今回は、その試験を終えた生徒に話を聞きました。

・面接では空気を読んで

私は、愛知県にある、自動車部品の製造を主な業務とする会社に就職が決定しました。

試験内容は国語、英語、数学、作文と面接。企業にもよりますが、報告書にある過去の問題を解けるようになっておけば余裕を持てると思います。

面接は予想していた以上にフランクなものでした。最近では会話形式の面接が増えてきている様子。気を抜きすぎて普段の口調になってしまうのは論外ですが、適度にリラックスして面接に臨みましょう。勿論、厳かな雰囲気の面接の場合はその空気に相応しい態度で。

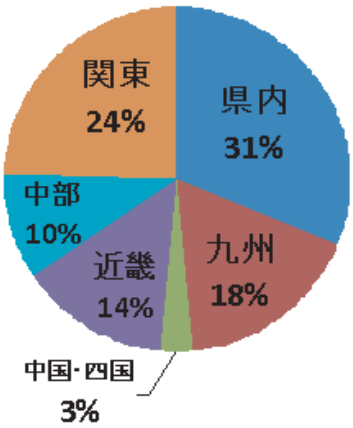
最後に、進路は両親とよく話合った上で決定しておきましょう。

・昨日の敵は今日の友

私の就職希望先の会社は近畿地方にあります。試験当日は不安でいっぱいで、とりあえず新幹線に乗って長崎駅で買ったパンを食べて心を落ち着かせていました。しかし、途中の駅で私と同じ企業の受験生と合流。ライバルですが、同じ緊張を味わっていると思えば落ち着くことができますので、同じ受験生とは色々な話をして仲良くなれるといいですね。

また、夏休み中に企業の応募前見学に参加していたことによって、企業のイメージをはっきりと持つ事ができました。そのため、あまり緊張せずに試験に臨めたと思います。望動機に取り入れることもできるので、一度は企業見学に行ったほうがいいですよ。

▼就職試験を受けた生徒の地域別内訳



今日の一枚 ～秋到来～

▼おいしくな～れ

真っ暗な部活帰り。空を見ると夏がもう通り過ぎたかのように、涼しげな風が吹いています。秋の訪れを感じますね。

今回は私が梨狩りに行った時に道になっていた「栗」の写真を撮ってみました。

秋と言えば勉強の秋、読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋などと言われます。この涼しげな秋の気候を利用して、なにかにチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

（薄田）

青春日記♪

太陽が燦々と輝きを放っているにもかかわらず、静かに流れる涼風のおかげであまり暑さを感じない九月末。食卓に並んでいた油の乗った秋刀魚を見て、秋の訪れを感じました。おろし大根とポン酢をかけて舌鼓。うーん、この贅沢。焼き魚は鯖派の私もこの時ばかりは浮気しちゃいそうだいかんいかん。ちなみに煮魚は鯛派、刺身は鰤派、寿司はつぶ貝派です。

寿司と言えば誰もが一度は行ったことのある回転寿司。最近ではパネルで注文した商品が新幹線の模型に乗って運ばれて来るなど、よりエンターテインメント性を高めた店舗も増えてきました。

このように、今では当然のように町に並んでいる回転寿司。しかし、最初に建てられた時には数々の賛否が巻き上がったことでしょう。

A「やい野郎！寿司を回すなんて狼藉、俺たちや絶対に許さねえぞ！」

B「アメ公のふぁすとふーどみたいになんでも手軽になりゃいいってもんじゃねーんだ！」

C「うるさいうるさい！食ってから物を言え！」

A&B「うめぇ…」

D「感動してんじゃねーよアホンダラァ！」

こうして着々と回転寿司支持者が増えていき、今に至るのです（妄想）。

こかれたであろうこの食事は、今流行の「おひとりさま」ニーズに応え、個室部屋などというスタイルが流行ってしまわないかどうか。どうせなら、カウンターの一部が横に開いて寿司がせり上がってくるような、遊び心溢れるギミックができてくれたらいいなぁ。

（山田）

がんばらんば国体 水球競技
～全力でエールを送る 叫べ！～

九月八日から十日にかけて国体の水球競技が長崎市民プールで行われ、各学年ごとに応援に駆けつけました。長崎県の少年チームには本校水球部の生徒も多数参加。全国の強豪が集まる中、結果は全国ベスト8。大健闘しました。

水球部キャプテンにインタビュー

試合の後日に水球部のキャプテンである小宗展大君にインタビューを行いました。

―Q試合を終えての感想。

―皆さんの応援のおかげで八位入賞することができ、嬉しかったです。反省点としては小さなミスが多かったことですね。

Q後輩に向けて一言。

―まずは新人戦に向けて新たなチームで頑張って下さい。

キャプテンの小宗君をはじめ、国体には三年生も選手として出場。高校生活最後の大会、力一杯試合に臨んでいました。大会お疲れさまでした。

野球部応援団にインタビュー

今回の水球競技では、野球部の二年生が応援の先頭に立ち、どの学年の時も応援をリード。試合を盛り上げてくれました。

そんな野球部員に試合前に話を聞くと「相手は強豪だがぜひ勝って欲しい」とのこと。試合後には「選手全員、精一杯プレーをしていて、こちらも応援に力が入った。見応えのある試合だった」と熱く語ってくれました。

応援生徒にインタビュー

そして、応援の一般生徒の感想は…。各学年の生徒に聞いてみました。

一年生「変わった応援で面白かった。スタートのところが長工が速かった」

二年生「最初は遠慮がちだった応援も、野球部を筆頭に少しずつ周りと一体となってエールを送れた。こんなに大きな声で応援できたのは、熱い試合を見せてくれた水球部のおかげだと感じた」

三年生「点差がひらいてしまっても、最後まで諦めずに闘っていたところに感動した」

また、顧問の坂本先生は「皆さんの応援のおかげで四十五年ぶりの入賞をすることができました。本当にありがとうございました」と話されていました。

最後まで諦めずに闘い、全国ベスト8という称号を勝ち取った長崎の水球チーム。これからも応援していきたいと思います。

▼エールよ届け！！

▶仲間と共に前へ進め

ものづくりの土台を支える 溶接の技術を競う
溶接県大会

九月二十一日に長崎高等技術専門校にて、長崎県高校生溶接技術競技会が開催されました。本校からは十八名の選手が出場。大会前、溶接のエースであるP3坂本拓史君は「目標は、団体優勝して九州大会へ出場すること。力を合わせて、優勝目指して頑張ります」と、気合の入った意気込みを聞かせてもらいました。

当日は雨が降りそうな曇り空。開会式後、選手たちはすぐに準備に取り掛かります。しかし準備を進めながらも、選手たちからはピリピリとした緊張感が漂っており、大会へ懸ける思いがひしひしと伝わってきました。

競技会場へ入場し、まずは開先加工。それが終了し、競技の説明が行われるといよいよ競技が始まります。競技中は離れた所からしか見ることはできませんでしたが、競技を終えた選手の顔は、やり遂げたような、清々しい笑顔でした。

競技後に感想を聞くと「最大限の力を出せた。落ち着いて取り組めた」という選手や「途中で失敗した。手が震えた」という選手が。しかし、どの選手も「やりきれた」と、精一杯大会に臨めたようでした。結果は十月中に発表されるそうです。結果が待ち遠しいですね。

▲ これぞ、職人技

あなたらしさを大切に
人生の達人セミナー講師 益冨美津代先生に聞く

九月二十四日に行われた人生の達人セミナー。今回は、講師に聖フランシスコ病院の副看護部長をされている益冨美津代さんを迎え、死と生について学びました。

講話後、益冨さんにお話を伺いました。

Q看護師になった理由は。

―母が病気がちで、それを治せるようになりたいと。でも勉強は苦手だったので、医者にはなれなかった。けれど、看護師として大事な人が病気になったときは、出来る事をしたいと思いました。

Q看護師になって良かったことは何ですか。

―この仕事は、普段出会う事の出来ない人々に出会うことができます。そこで、「人生勉強」をさせてもらうことができる、とてもやりがいのある仕事だと思います。短時間でもその人の生きてこられた証を見ることができる。宝物をいただいたのだ。と思った時、看護師になってよかったなと思いました。

Q最後を迎える人を見送る時、何を思いますか。

―「また会いましょうね」と思うようにしています。辛いけど、次の人にきちんと向かい合うことができるように。

今回の講話では多くの事を学ばせて頂きました。私たちにとって「死」や「生」という言葉は、漠然としていてそれについて問われたとき、簡単には答えることは出来ません。しかし、いつかは自分の身に訪れることです。一度、今の自分と向き合ってみることも大切です。

▼自分と向き合う

好奇心の扉が開く 化学教室

八月十八日から二十二日にかけて一棟三階の工業化学科の教室で、小学生から中学生が対象の科学教室が開催されました。工業化学科の先生が講師となり、生徒はそのアシスタントとして参加。液体窒素の実験で果物やボールを凍らせる実験や、生クリームと牛乳、バニラエッセンスを液体窒素で固めてアイスクリームを作る実験、アルコールをペットボトルに入れ火をつけてペットボトルロケットを飛ばす実験などを行いました。

参加者の感想は

―化学教室が終了後、子ども達に感想を聞くと「楽しかった」「初めて見たものが多くて面白かった」と保護者の方からは「子ども達が興味津々で良い経験になったと思う」という声が聞かれました。好評の内に終了した化学教室でした。

▼3．2．1発射！

▲マイナスの世界初体験

シリーズ 溶接1!2!3!
溶接大会

三年生は毎年、就職試験を終えるや否や開放感に浸る暇もなく溶接の練習に取り掛かります。そして三日と経たないうちに大会本番を迎えるという超ハードスケジュール。合格の知らせが届いた者は晴れやかな気持ちで溶接を楽しめますが、まだの者は常に不安を抱えながらの溶接となります。

どんなに頑張っても普段以上のものはなかなか作れません。緊張を受け入れ、いつも通りの作業を心掛けます。私も少ない練習時間でもどうにか感覚を取り戻し溶接をすることが出来ました。曲げ試験が行われ、今月中には結果が出るとのこと。これが終われば溶接も引退。どうなる！（甲斐田）

▲準備はＯＫ？

一年生な☆日々

私は昔からよくなくしものや落し物をしてしまいます。それが最近、高校生になってから異常なほどに増えているんです！特に補助バックに付けているキーホルダー。ちなみに、今付けているのは友達が作ってくれたミサンガで確かで七代目です。ミサンガは切れると何か良い事が起きると言われていますが、私にとっては八回目の不運となってしまうのでこれは是非阻止しなければ！

先日の放課後、小銭入れを手に自動販売機へ向かっていると手の中でプチッという音が…。見てみると小銭入れに付けていたキーホルダーが切れていました。手の中で良かったぁーと安心してキーホルダーをしまおうと小銭入れを開けたその時！なんと小銭入れの目の前が落としてしまい、一面に広がりました。必死に小銭を拾っていた。時は恥ずかしかったです。しかし、少しでも落とすタイミングがずれていたら全部溝行きになっていたかもしれません。なくしたものが見つかった時の喜びは大きいですが、最初から嫌な思いをしなくていいよう持ち物管理には気をつけようと思います。（平松）

編集後記

育祭ですが、一体各科ではどのような練習が行われているのでしょうか。国体の開催などもあり、色々と忙しい時期になりますが、体調管理には気をつけて頑張りましょう。

ようやくテストも終わり、いよいよ待ちに待った体

なんだと!? こふ工生!!!
～体調管理は大切～

だろうね。